

ビーチクリーンで海をきれいに

楽しい「エコ」体験レポート

名古屋から一番近い海、新舞子マリナーパークで多くの人が海を満喫していた。ウインドサーフィンをする若者。砂遊びに熱中する子ども。パラソルの下で本を読む人。犬の散歩を楽しむ人。青い空には、風力発電の白い翼がゆっくりに動いている。

エコライフブースへ。「誰でもできる二酸化炭素削減の方法をパネルで紹介しています」とNPO法人日本ビーチ文化振興協会の吉澤裕子さん。自分にできることを選び、シールをはる。「イベントに来たみなさんでどれだけ二酸化炭素が減ったか、シールの数で計算します」そこ

へビーチバレーの朝日健太郎選手が登場。「僕は最近、お風呂の残り湯で洗濯しています」と試合の合間に普通に話している。

パネルに目を戻すと「ビーチに遊びに行く前日は、1時間早く寝る」という文字。早寝で消費電力を減らして、昼間は思いっきり外で体を動かす。帰ったら疲れてまた早寝。それも二酸化炭素削減に一役買っている。

海辺では、ビーチサン競べ大会やビーチフラグスなどのイベントも行われている。先ほどまでいた朝日選手がゴミマスター隊長に早変わりし、ゴミ拾いをしている。みんなとても楽しそうだ。楽しいエコ活動もあるということを見せてくれたイベントだった。



楽しくやろうよ！ ゴミマスター隊長 朝日健太郎さん

ゴミ拾って、ネガティブにとらえられず。そして、楽しくゴミ拾いをした人、もう海辺を汚さないでしょう。難しく考えないで、「楽しくやろうぜ」って、これからもたくさんの人に伝えていきたいと思っています。

「第3回ビーチライフin新舞子」

ビーチライフはエコライフ

特定非営利活動法人 日本ビーチ文化振興協会 理事長 瀬戸山正二さん

日本ビーチ文化振興協会と日本ビーチバレー連盟は、「海辺を守ろう! 運動」に取り組んでいる。海岸に漂着するゴミや不法投棄、地球温暖化による海面上昇などを解決していこうという運動だ。今後の展開について、瀬戸山さんに話を伺った。

ビーチバレーは試合も練習もビーチで、海辺はまさに生活の一部。ビーチが無くなったら生活できなくなる。だからできることから始めました。試合前のゴミ拾いや、環境に関する啓発活動。例えばトレーディングカード。ビーチバレー選手らに協力してもらい、各選手のカードを制作。裏に環境メッセージを入れました。試合後やイベント時に配布しています。

家で過ごす場合、夏ならクーラーをいれて、テレビやゲーム、ネットサーフィン。全部電気を使っています。でもビーチで過ごせば電気は使いません。暑かったら海に入ってもいい。



プロフィール…ビーチバレーで1996年アトランタ五輪出場、日本ビーチバレー連盟理事長、日本ビーチ文化振興協会理事長、08年、日本代表監督として北京五輪に挑む。

砂遊びも思う存分できます。ボールを持ってくればビーチバレーだってできます。これってすごくエコな生活だと思いませんか。

「海外のビーチで何を？」と聞いたら、読書や昼寝。でも日本でしている人はいない。ビーチは夏に泳ぐ場所ってイメージがあるけど、春も秋も冬もいろんな楽しみ方ができます。開放感があるのびのび体が動かせて。日本でも、ビーチを海水浴以外で活用できれば、無理なく楽しく、地球に負荷をかけない生活ができるのではないのでしょうか。